

日本地震工学会 津波等の突発大災害からの避難の課題
と対策に関する研究委員会

パネルディスカッション

中川 和之(時事通信社解説委員、静岡大学防災総合センター客員教授)
 後藤 洋三(東京大学地震研究所)
 佐藤 誠一(日本工営)
 末松 孝司(東京工業大学)
 村上 ひとみ(山口大学)
 山本 一敏(パシフィックコンサルタンツ) コーディネーター

2016.5.10

避難行動は極めて複雑で、個性的であるが、地震直後の意識と避難行動パターンを分類した。

避難行動パターン		山田町 n=145 (%)	石巻市 n=749 (%)
a) 津波が来るかもしれないと考えて、直ちに避難	a-1) 安全な避難場所に留まり、津波を逃れる	20	10
	a-2) 避難途中、あるいは避難場所で危険な状況になる	3	3
b) 津波が来るかもしれないと考えるが、直ちに避難しない	b-1) 要援護者を助けに行く	6	4
	b-2) 家族を迎えに行く、物を取りに行く、家の様子を見に行く	32	25
	b-3) しばらく様子を見る、避難の準備を続ける	35	26
	b-4) 自力避難が困難、あるいは職務上の都合でそのまま留まる	1	3
c) 津波のことは考えない、あるいは津波は来ないとする	c-1) 地震動による被害や恐怖心をきっかけとした避難	0	3
	c-2) 家族を迎えに行く、物を取りに行く、家の様子を見に行く	0	11
	c-3) そのまま留まる	3	15

避難行動の例

20代女性



対象とする避難: 命を守るための発災直後の避難

主に津波が対象となるが、他の災害からの避難も対象とします。

- 東日本大震災における山田町と石巻市のアンケート調査によると、地震後に直ちに立ち寄りせずに避難した人は、山田町で23%、石巻市で13%に過ぎない
- 地震後に直ちに立ち寄りせずに避難する人をどうやって増やせばよいのか
- またこの方策を永遠に継続できるのか、短期的にはともかく長期的に自力で避難できない方の対策をどのようにするのか
- 1) 避難と情報、2) 自助・共助と公助、ソフト対策とハード対策、3) 避難シミュレーションの方向性と可能性、の観点から議論していただきたいと考えております。